

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174600197		
法人名	社会福祉法人慧誠会		
事業所名	グループホームベルエポック		
所在地	帯広市川西町西1線47番地6		
自己評価作成日	平成24年2月8日	評価結果市町村受理日	平成24年3月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0174600197&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成24年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. ご家族と一緒に…
 グループホーム職員は、家族ではありません。職員だからできることもあれば、ご家族だからこそできることもあります。だから…ご本人の”生活の質”を考えた時、私たちだけではなく、家族と一緒にご本人の暮らしを考え、作ることを大事にしています。ただ家族それぞれ、これまでの親子関係も違えば、出来る範囲も違います。そこを理解しながら、ご家族ごとに合わせた”介護チームの一員”としての意識づけ(相談・フォローも含む)を大事にしています。

2. 日常におけるOJTの充実
 交代勤務であるため、全員が揃う機会はありません。その分、日常の入居者の様子等を記録する日誌はもちろん、職員間で情報発信、意見交換をしあうチームノートを活用しながら職員個々の仕事の状況や悩み・特性等を把握し、職員間で相談やアドバイスをしあうよう、チームとして総力でケアをできるように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

帯広中心地から南に10キロ程離れた十勝平野の静かな農村地帯で、事業所周辺は畑が多く静寂に囲まれた環境の中にある。経営母体である社会福祉法人慧誠会の総合福祉施設に隣接しているので、重度化や終末期の支援体制は整っている。日々の取り組みで職員と利用者が家族のように、一人ひとりに寄り添い、会話を楽しみながら一日一日を大切に過ごしてもらえるよう支援している。職員は内外の研修にも積極的に参加し、認知症ケアに対する理解も深く、質の高いケアを目指して努力している。地域との係わりも密であり、農業高校の生徒が来てボランティア活動をしている。利用者家族との関係も良好で、定期的に開催している運営推進会議の中で家族の声が反映される環境が作られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームは法人の「基本理念」、高齢者部門の「ケア理念」、更に「グループホーム基本理念」に基づいて運営。法人理念には「地域に還元する」ことが明記されており、建物の中で職員だけでケアを提供するのではなく、家族も含めた地域の力を借りて、あるいは地域に還元して実践を続ける意識を持っている	「ケア理念」「基本理念」「事業所理念」に関して日々の業務の中で共有理解し、利用者の支援に努めている。事業所理念を管理者及び職員で話し合い、昨年から見直しを行なっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の小中学生の慰問や、行事を通じた近隣GHとの交流、同一敷地内の生活支援ハウスやデイとの協働行事の実施、近隣障害者施設の行事への参加などを行っている。また日常的にスーパー等の買い物へ入居者と一緒に行く等、ご近所・地域を感じられる機会を作っている。	敬老会等の地域行事に積極的に参加し、また併設のデイサービスと餅つきなど合同で実施している。広い敷地で花壇も作っており、近隣の農業高校の生徒が数名定期的に来て畑を耕したり草取りをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	GH単独では取り組みはできていないものの、併設の地域包括支援センター職員がGHの行事等に参加しながら職員と交流、認知症のこと、認知症ケアのことを地域への出前講座の中で発信する等、地域支援に結びついている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回会議では、入居者の状況や職員の想いを報告。その後会議だけで終わるのではなく、入居者職員と一緒に、畑起こし、焼肉、流し素麺等の活動や食事会を実施。実際のふれあいを通じてグループホームを感じて頂いている。地域の委員からは住民のボランティア活動の提案等頂きながら連携を進めている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し町内会長・農協・包括支援センター・消防署・有識者・家族が参加している。取り組状況を報告し意見交換を行い、情報や問題点についてのアドバイスをもらってサービス向上に生かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員の施設見学や実習をうけいれたり、介護保険課に意見やサービスに関する情報を頂いたりしている。敬老会の際には、市高齢福祉課長に出席いただいた。	事業所側から情報を伝えてもらうように積極的に働きかけ、常に提案したり要請したりして、関係を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束がいけないことは職員全員理解できている。実際に拘束に至る事例はないし、職員同士がケア内容に関して意見交換することで、身体拘束という手段をとらずに済むケアを検討。	利用者の人権を尊重するケアを基本に、身体はもちろん言葉掛けにおいても、心の拘束につながることを職員一同理解している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者部門全体で北星学園大学より講師を招いて研修会を実施。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修報告や各自の学習による。それらを主とする会議の場は持っていないものの、現在成年後見制度の申請を進めている事例がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には、運営規定や重要事項説明書・個人情報保護等について、利用者・家族に十分な説明を行い、さらに個別の状況を検討しつつ、理解・納得・同意を頂いてから契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付係を施設内に配置していると同時に、第三者委員会を設け、利用者・家族より苦情を言いやすい配慮をしている(利用契約時に説明をしている)。運営推進会議の委員には複数の家族に参加いただき、その後の食事会等には他の家族も参加。スタッフとの関係を深める機会を増やしなが、共に支え合う関係作りを心掛けています。	利用者の思いや意見は日常の会話の中から汲み取り、家族からの意見・要望があれば即対応し、運営に反映させている。又管理者は必要があれば家族を訪問するなどしてサービスの向上に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議という場よりも、日常の会話の中で意見交換をしながら運営している。	管理者は折にふれ職員の思いを聞いている。また、職員は現場で感じたこと、疑問に思ったこと、提案することをノートに記入し、管理者に伝えるようにしている。	早朝5時から7時まで利用者が集中して起床するため、起床時の事故への不安について、全体会議で話し合うなど安心して支援できる体制を期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本来の職務を常に自覚する働きかけと共に、それにそった反省材料や向上した事など具体的に納得できるよう心掛ける。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当施設は人材育成目的の人事考課を取り入れています。日常業務を通じスタッフ個々に合った育成を目指しています。GHでは個々の目標を公開し相互育成を図ったり、外部研修や苑内の合同研修を実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修で同業者と交流する機会はあるものの、今年度はGH関連団体が開催する相互交流事業には参加できなかった。その分、運営推進会議での他法人の地域包括職員を通じた情報交換、併設のデイ・特養・生活支援ハウス等と交流する機会や合同の研修会を開催している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前・後に関わらず、話をすることを大切にしています。その中で不安や楽しみ等今後役に立てる事は、積極的に職員間で協議、共有しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	双方が十分に説明、話し合う場を大切にしている。GHとしても、入所者または家族の方とも「何を大切にしたいか?」、「こんな事をしていきたい。」と話し合うことを大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	双方が十分に説明、話し合う場を大切にしている。GHとしても、入所者または家族の方とも「何を大切にしたいか?」、「こんな事をしていきたい。」と話し合うことを大切にしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が何をしてみたいのか?どうしたら本人が輝くのか?を念頭に置き対応しています。家事などの日常的な活動も含め一緒に行い、それらからアドバイスを頂いたり、一緒になって考えたりしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の事で困った時悩んだ時等、積極的に連絡を取ったり、家族からの要望を意識的に聞くことはもちろんだが、日常のケアと一緒に参加して頂くことを意識的に継続している。		
20	8	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や店等、関係が途切れないよう出向いたり交流を持つように支援しています。	家族を含め馴染みの方の面会が途切れる事なく、昔の友人を連れて来て食事を一諸にしたり、馴染みの商店街に買い物に行ったりし、利用者の思いに沿った対応がされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士お互い助け合ったり、顔なじみの関係になるよう、そっとお手伝いをさせて頂いたり、見守りながら支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	最近では医療機関への継続入院で契約終了となった方が数名。その後も病院を訪ね状態を確認したり、医療相談室のSWに情報提供する等支援が途切れないよう意識している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃より、利用者と関わったり会話をする中で、本人の希望や意志をキャッチするように心掛けています。また、日常の中や会議等で対応に活かせるようにしています。	日々の関わりの中で利用者の行動・表情等から意向や思いを把握している。時には家族の協力も得ながら利用者本位のケアとなるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にこれまでの生活歴や馴染みのもの等を把握するようにしています。また、アセスメントの記入などでも行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりの体調や気分、様子等常に見守り、把握するように努め、その日に合った活動や行動をとって頂くようにしています。こちらから無理強いしないよう、なるべく本人と相談しながら行っています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所時や状態等の変化があった際アセスメントをしたり、すぐに職員間で意見を出し合うようにしています。本人・家族の意見等も踏まえて計画を立てるようにしています。モニタリングのタイミングが遅れることもあるが、日常の変化を職員関係者だけでなく、家族とも共有し、それを反映したプラン作りを意識しています。	日々の関わりの中で気付きや家族からの意見要望を聞き、職員は利用者がどのように変わったか振り返り問題点を追求しながら話し合い介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日日誌や個人記録への記録は継続的に実施できている。入居者ごとに担当職員を決めているが、記録をもっと計画や日常のケアに生かすという観点では、もう少し学習が必要。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設との医療連携と、必要に応じて直接各種相談できるよう配慮する。また、GH内で終わらないよう、行事など共同企画している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	残念ながら地域の関係は少ない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医に通院している。またそれ以外にも、当苑の主治医にも適時相談する。	かかりつけ医への受診は職員が同行する。利用者家族の判断で協力病院の訪問診療を受け、又母体の関連施設の医師がいつでも対応出来る体制が整っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の身体的変化、また通院結果など細かく相談・報告している。またバイタル測定時には、会話から心情なども伺っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、できるだけ面会に出かけている。またその様子を、家族にも連絡し、お互いの状況を共通化すると共に、安心できるように心掛ける。家族の許可があれば、病院との説明にも同席する。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の説明と共に、日頃の身体変化と対応について細かく話している。その上で、医療機関と協議する。	契約時に重度化や看取り介護の対応について指針を基に利用者・家族に説明し、現実化した時は医療機関も含め、家族ともう一度話し合いをすることとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設施設と緊急時対応をしている。緊急時対応など訓練しているが、実際には職員個々の技量や経験の差が予想される。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に非難訓練を実施。一番手薄になる夜勤帯などの火災を想定して実施。	年に2回消防署が参加して避難訓練を実施しており、この時に器具の点検と取り扱いに業者を入れて訓練を行っている。	災害時の備蓄品を備え、地震の際に利用者の安全を図るための「対応マニュアル」を作成し、地震を想定した訓練をすることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保守や秘密事項厳守を前提に、ひとりひとりに合わせた会話や会話の援助と共に、話の内容や周囲の状況を組み合わせながらホールや居室を活用し、安心して頂く。個人情報取り扱いの取り扱いは職員のみで、持ち出し厳禁。	利用者の人格を尊重し、それぞれに合わせたケアに心掛け、職員は日々の生活の中で利用者の尊厳を損ねないように心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけこちらからの話が伝わるように、本人に合わせた声掛けをするように心掛けている。また、障害や判断する力を総合的に考えて、現在の能力と潜在力を発揮・表出出来る事を目指す。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人から希望があった場合は、出来るだけその日の内に希望に添えるよう対応している。通院等でどうしても対応出来ない場合は、他の職員とも連携を取り、早い内に行うように努める。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	こちらからの一方的な意見だけで、化粧や髪型を決めないように配慮している。散髪は、出張美容室を利用している方が多いが、その方に合った所を選んだりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備・調理をして頂き、十分でない所はこちらでお手伝いをさせて頂く。どのような事が楽しくなるのか嬉しくなるのか、それぞれのあり方を考えている。本人の希望を取り入れるように、買い物に行く前に欲しい物を聞いたり、直接一緒に見たり、手にとって好きな物を選んで頂く機会を設けている。一貫しているのは、「食事(過程も含め)と一緒に楽しむこと」。	食事は総て手作りの物を提供し、職員が一諸に食事を摂っており、利用者の状態に合わせた適切な介助が行なわれ、和やかに食事を楽しんで、仲良く食事ができるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好き嫌いもあるので、好んでもらえる飲み物を勧めている。また糖尿病の方は、食事量や糖分のバランスには気を使っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ではないが、口の中にたまっているようなら必要に応じて行っている。又、寝る前には必ず義歯の洗浄をし口臭予防をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日常の中で職員同士の相談等を大切にしています。まだまだ一人ひとりのパターンを十分に把握しきれているとは言えないが、日中オムツ着用だった入居者2名が紙パンツに移行する等排泄自立に向けた努力を続けている。	現在オムツを使用している利用者はいない。排泄介助の必要な利用者が4人程いるが、個々の状況に応じて排泄の自立支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝食時には牛乳をお出ししたり、なるべく水分を取っていただいたりしている。必要な方には排便のチェックをし、Nsと相談し下剤の調整など行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	特に曜日や時間を設けていない。いかに気持ちよく入浴していただき、「ほっ」と出来る瞬間を作ってあげる事を念頭に置いています。無理強いはしません。	本人の意向を大切に、曜日や時間帯は決めていない。利用者の希望に沿うよう柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	外に長い時間、出掛けている日や行動的な時時には、他職員に申し送り、疲れを残さないよう配慮しています。時々職員がほかのお年寄りの対応でお待たせしてしまう事もありますが、きちんと、説明し納得して頂けるよう声を掛ける。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	頓服等で服用されている方々もいらっしゃる中で、職員同士で申し送り、様子を細かく伝え合っている。薬の事で疑問があれば、かかりつけ医やNsに相談し解決できるよう努めている。誤飲がないように1つ1つ名前を確認しながら行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理の得意なお年寄りには食事作りや茶碗拭きをお願いしたり、裁縫の得意な方には台拭きや雑巾縫いをお手伝い。夏場は外に散歩に行き花を摘んできて居室に飾ったり。隣接する認知症デイでレクに参加したり、生活支援ハウスの行事に参加する等の活動を継続中。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「買い物に」という要望が多く、なるべくすぐに行動できるよう努力しています。本人がその時思ったことやしたい事を実現できるようにと思っています。又、お年寄り全員でお花見や紅葉見学に出かけたり、ドライブ(散歩)がてら近くのアイス屋さんに出かけ食べに行くこともあります。	職員と一緒にスーパーに買い物に出かけ、店員と馴染みになり、会話するのが楽しみになったり、季節に合わせて花見や行楽などに出かけて気分転換や五感刺激となる様に支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	きちんと管理出来る方があまりおらず、一部のお年寄りに限ってしまっていますが、本人にお金を管理して頂き、ご自分の好きな物を買ったりとしています(飲み物やお菓子等)また職員と一緒におこずかい帳をつけ、毎月の決められた金額からやりくりしている方もいらっしゃいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族同士のお話はなるべく、本人で電話して頂いています。また遠方のご家族と手紙のやり取りが続いている方もいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花、写真、行事の装飾物を入居者と一緒に飾り、その方の好きな敷物・座布団・音楽等様々なものが居間に持ち込まれ自分の存在を表現しています。入居者は一日中、居間で過ごされソファで横になり昼寝をしたり、新聞・テレビを見たり、時には何人かの方でゲームを楽しまれたり、料理をしたりとさまざまな姿で過ごされています。	食堂と居間は一体で広く、窓から明るい日差しが入り、観葉植物を置き、居心地良く過ごせる共用空間となっている。ゆったりとしたソファや大型テレビを置き、そこで自分達が写ったビデオを見るなど家に居ると同じ気分になるように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の中には大きなテーブルが二つあり、ソファも三つあったりとそれぞれにホッと一息ついたり、気の合う人と話したり、外の様子を眺めたり、こっそりお菓子を食べたりと自由に使い分けています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込み品は全く自由です。出来るだけ使い慣れた家具・身の回り品を持ち込まれるよう呼びかけています。自室は本人・家族、本人・職員で相談しながら使いやすいようにしています。	思い出の写真や趣味の物、家具などを持ち込み、その人らしく整理整頓され居心地良く過ごせる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレの手すりなど安全に生活できる工夫がされている。居間のテーブルやソファも車椅子の方が通りやすい様に広さを確保しています。		